

区政会議における意見への対応状況
(外部評価意見への対応方針)

【分類】
①当年度において対応
②翌年度に対応予定

番号	年月	会議	意見内容（要約）	対応（回答）	分類
1	R5.12	令 政 5 年 議 度 全 体 3 回 区	【防災ジュニアリーダーについて】 防災ジュニアリーダーの募集について、青少年指導員など地域の子どもたちとつながっている人たちの協力を考えてはどうか。必ず卒業という節目が来るので、新規加入に向けた動きが受け身的にならないようにするべき。また、継続して活動してもらえよう訓練内容も工夫していくことが必要。 (東野委員)	今年度は、キャップやブルゾンの配布、訓練動画の配信なども行い、メンバーのモチベーション向上にも注力し、小学校を通じて小学校6年生にチラシの配布や防災ジュニアリーダー自らが友達に防災ジュニアリーダーの魅力を伝えていただくなどの取組を行っています。今後は、新規加入に向けて地域と連携し進めていければと考えています。 訓練は、年2回実施し、直近の訓練では区役所からリヤカーを引いてあべのタスカルへ向かい、防災体験と備蓄物資の搬出・運搬訓練を行うなど、訓練内容を工夫しています。	①
2	R5.12	区 令 政 5 年 議 度 全 体 3 回	【防災訓練のメニューについて】 今年の文の里地域のまちなか訓練では避難所開設訓練がなかった。隔年でも開設訓練を実施しておくべきである。 (東野委員 事後意見)	避難所開設訓練は、災害時の初期初動として非常に重要な取組であり、区役所としても実施していただきたい訓練であり、各地域で避難所開設訓練も実施できるよう支援してまいります。	②
3	R5.12	区 令 政 5 年 議 度 全 体 3 回	【放置自転車にかかる啓発について】 放置自転車の撤去の際、撤去された場合の保管場所への引き取りや、保管料などを広報紙や、SNSで発信するなどデメリットを掲載してはどうか。 (東野委員)	放置自転車にかかる啓発については、阿倍野・天王寺駅周辺は「ゆめまちロードOSAKAあべの」での啓発活動、昭和町、西田辺駅周辺は地域のサイクルサポーターの皆さまと啓発活動を実施しております。 以前いただいた同様の意見を参考に啓発活動で配布するティッシュには、「撤去自転車等を引き取る際には、撤去保管料がかかります。」と記載しております。また広報紙やSNSでの発信につきましても工夫してまいります。	①
4	R5.12	令 政 5 年 議 度 全 体 3 回 区	【身近な健康相談のPRについて】 1Fの3番窓口（保健活動）で保健師による身近な健康相談を行っていることをPRしてはどうか。 (東野委員 事後意見)	保健福祉課（保健活動）1階3番窓口にて保健師による健康相談を随時行っており、区ホームページ及び区広報紙に掲載しております。 今後も積極的なPRに取り組んでまいります。	①
5	R5.12	令 5 年 議 度 全 体 3 回 区 政	【区政会議の意義について】 公園の炊き出し訓練について、建設局に断られ、区役所でもいい返事が返ってこなかったことについて、区政会議でどうしたらできるかという方向で考えてほしいと要望を出したところ、「できるように努力をする」という区役所の対応策が出された。地元が必要だということに、できる可能性を探って調整しようという考えに立たれたこと、これが区政会議のひとつの存在意義でないかと考える。地元の声を区政に反映して、区役所が応えて区政を住民により身近にする橋渡しを担うのが区政会議、この役割を今後も進めていければと思う。 (今井委員)	区政会議でいただいたご意見を区政に反映できるよう前向きに取り組んでまいります。 また、活発な意見交換ができるように、自由に意見が言いやすい場として部会単位で非公開の勉強会も開催してまいりました。今後もある意義な会議となるよう運営の工夫に取り組んでまいります。	①
6	R6.6	令 和 6 年 度 第 1 回 区 政 会 議 全 体 1 回	【不登校相談の窓口について】 不登校児などの相談支援について、令和5年度の目標が達成できていなかった。 不登校の相談支援業務への評価が低かったことも関係すると思うが、不登校相談の窓口において、予約制であるので予約してから出直して来てほしいと言われたので、出直して窓口に行ったら約束の有無を尋ねられたという話があり、冷たい対応ではないかと思った。 町全体での子育てという目標の中で、せめて区役所の子育て支援室は、子育て支援のショートゴールになってほしいと思いました。そこから阿倍野区全体の子育てにつなげていってくれたら評価もあがるのではないかなと思います。 (金光委員)	不登校相談については、専門的な資格を持つ相談員が直接対応できるよう、電話での事前のご連絡を勧奨しております。直接窓口に来ていただいた場合は、ご相談内容の概要をお伺いした上で、相談内容に応じた相談員が対応するため、予約制ではありませんが、日を改めてご来庁いただくことをお願いすることもあります。 なお、委員よりお話がありました、窓口に来られた方のご相談を何わずに滞っていたという事実は確認できませんでしたが、そのようなことが起きないよう、職員に指導してまいります。	①
7	R6.7	令 和 6 年 度 第 1 回 安 全 ・ 安 心 部 会	【防災ジュニアリーダーについて】 防災ジュニアリーダーを維持、増員するため、例えば防災ジュニアリーダーのユニフォーム作成の際、当事者に選考委員になってもらったり、防災ジュニアリーダーに登録することで得られる楽しみなどを区役所で工夫して発信すれば、防災に意識をもって活動してくれると思う。 防災ジュニアリーダーを募集する中で、年2回の防災ジュニアリーダー訓練に体験参加させてはどうか。 地域防災リーダーを増やすために、防災ジュニアリーダーを卒業した方や、自身の出身校の卒業生や友達なりに、声をかけて、地域防災リーダーの勧誘をすればどうか。 (東野委員)	防災ジュニアリーダーは当区が他区に先駆けて取り組んできた制度であり、装備品もボロシャツのほかに日常でも使ってもらえるようなキャップやウインドブレーカーもお渡ししています。 また、募集については、区内中学校でのポスター掲示や、YouTubeでの訓練映像の発信、小学校6年生への周知なども行っています。 訓練内容は消防署の協力もいただき、楽しいという要素も大切にしながら実施しています。 防災ジュニアリーダーを卒業後は、地域の防災活動に流れていくような仕組みづくりが必要だと感じています。ただ、この間、地域のまちなか訓練に参加してもらえたり、防災イベントに参加してもらったりする事例も出てきており、こういった流れを高めていくことが大切だと考えます。 防災ジュニアリーダーの周知については、友達を紹介してもらう取組を進めています。また、体験訓練のような手法も取り入れ、防災ジュニアリーダーの維持・増員につなげてまいります。	②
8	R6.7	令 和 6 年 度 第 1 回 安 全 ・ 安 心 部 会	【若年者層の防災訓練等への参加について】 区役所若手職員の方が、防災訓練や地域の取組などをTikTokで発信すると若年者層はもっと興味を示すと思う。 区役所のX(旧ツイッター)は、質問しても返ってこないで、若い人は興味を持たない。せっかくいろんな動画やSNSで発信しているのであれば、区役所は、受け取るだけでなく、もっと積極的に活用してほしい。 (東野委員) 各地域で防災訓練、避難訓練等に参加している年齢層は、ほとんどが高齢者で、若い世代の方、あるいは子育て世代は少ない。訓練に参加することで、意識づけにもなると思う。 (森尾委員) もっと参加したくなるような楽しい訓練なら若年者層も参加するのではないかな。 防災ジュニアリーダーたちが地域の訓練に参加して、若手や女性消防士を交えて、フランクに話せる時間やどんな訓練だったか参加してみたいかなど、アンケートしてみるのもいいのではないかなと思う。 (東野委員)	令和4年度より防災ジュニアリーダー訓練の様子をYouTubeにアップし、若年者層に関心を持ってもらえるよう取り組んでいます。 防災ジュニアリーダー訓練は令和4年度から消防署の協力を得て体験を重視した訓練内容に変更しています。アンケートでもこういった体験型の訓練は喜ばれており、災害に対する体験を楽しく、かつ真面目に取り組んでもらえるよう工夫しております。	①
9	R6.7	令 和 6 年 度 第 1 回 安 全 ・ 安 心 部 会	【交通ルール・マナー及びヘルメット着用促進にかかる周知について】 交通ルール・マナーの促進について、有名人や、阿倍野区住みます芸人を使ったSNSや動画配信でPRしてもらうのはどうか。以前に、オリックスのOB選手が参加する「あべのウォーク」があったかと思う。こういった有名人などを利用したPRが有効だと思う。 (東野委員) ヘルメット着用促進については、自動車運転免許証の更新時に、事故動画などを用いた指導を行っているので、ヘルメット未着用時の事故などの動画を作成して周知すれば、着用率もあがるのではないかなと思う。 大阪府警の「安まちメール」は、阿倍野警察も配信しており、この情報が犯罪被害の予防に相当威力を発揮している。子どもへの犯罪対策として、区役所で巡視をしている。また、子ども110番の取組みも犯罪を未然に防止していると思う。 自転車の事故防止のための交通ルールの遵守、マナー向上は当たり前のことだが、阿倍野区も外国籍の留学生、就労の方が増えてきており、国情が違うことから、外国籍の方に向けた交通ルールやマナーなどのチラシを配ってもいいのかなと思う。 ヘルメット着用の問題も、自転車販売時に、特に高齢者の方を中心に着用を促して。ヘルメットの着用を一つの習慣にしたら、ヘルメットがなくてはならないという気持ちになるので、ぜひかぶっていただきたいと思う。 (中山委員)	SNSや啓発動画に阿倍野区住みます芸人を活用したPRは、他の取組でも行っておりますので、今後、交通ルールやマナーおよびヘルメット着用促進動画作成に関しても阿倍野警察署とも連携し、検討してまいります。 外国籍の方に向けたやさしい日本語表記のチラシについては、一部、区広報掲示板、市民学習センターにて配付しております。今後、日本語学校等に配付できるよう内容も含め検討してまいります。	②
10	R6.7	令 安 全 ・ 安 心 第 1 回	【特殊詐欺被害防止について】 災害発生時や、還付金詐欺などのいわゆる特殊詐欺といった犯罪に関して、情報を迅速にかつ正確に伝えていく必要がある。提案としては、阿倍野区としての防災防犯アプリの充実。頻繁にアポ電がかかってくる状況の中、やはり正しい情報を迅速に伝えることはすごく大事だと思う。ぜひアプリの充実をお願いしたい。 (小川委員)	犯罪に関する情報でいえば、大阪府警から配信されている「安まちアプリ」があります。住んでいる地域を登録すると、その地域の防犯情報が配信されます。また、防災の情報が配信される「大阪防災アプリ」では、地域の気象情報ははじめ災害時における避難所施設情報が配信されます。これらのアプリは、阿倍野区の情報も掲載されておりますので、活用いただけます。 必要に応じた情報につきましては、区のX(ツイッター)等SNSにて引き続き配信してまいります。	①
11	R6.7	令 和 6 年 度 第 1 回 安 全 ・ 安 心 部 会	【町会加入について】 マンションの住民と、地域、連合町会の方とのリンクが何もないように感じる。近くの小学校での催しなどは見に行くが、よそ者が来たみたいな感じで入りにくく感じる。阿倍野はマンションが非常に増えているので、古くから居住されている方や連合町会の皆さん方の活動というのが、マンションの住民ともう少しリンクするような形で活動を広げていただけたらと思う。 (谷口委員) 催しの案内などを、マンションの方にも働きかけようとするが、オートロックが多くて訪問も難しく、なかなか参加してもらえない。 老人会や振興町会に加入しない方が増えており、どうしたら加入してもらえるかと加入しない方にお聞きできれば、もっと加入してもらえと思う。 (森尾委員) 私は、マンション全部の部屋に声をかけて、町会の活動を説明している。ちょっとずつやっていくしかないと思う。 (東野委員)	本年3月に「大阪市町会加入促進戦略」を策定し、加入率が低下する町会への加入をどうすれば上げていけるかということ、そのための目標を掲げて取り組みを進めています。 いただきましたご意見については、町会加入促進戦略にもとづく阿倍野区のアクションプラン策定にあたり、町会へもお話をさせていただき、どのような進め方があるかについてお互いの意見をすり合わせていければと考えます。	①

[分類]
①当年度において対応
②翌年度に対応予定

番号	年月	会議	意見内容（要約）	対応（回答）	分類
12	R6.7	令和6年度第1回まちづくり部会	【町会加入促進について】 町会でも町会員を増やそうといういろいろなイベントや懇親会をやっているが、なかなか増えない。 マンション住民が町会になかなか加入してもらえないし、管理組合はマンションにポスターも貼らせてくれない。 マンションの管理人とアポを取るのも難しいので、地域のみなさまがどんなふうにされているのかお聞きしたい。 私の町会では、会員数を増やすために、お地藏さん祭り、餅つき、町会の懇親会も予定しており、若い人がおられたら、声をかけたり、町会だよりを渡したりしている。 去年は町会だよりを500枚くらい配ったが、加入者は1名くらいでなかなか入ってくれないのが現状。 地域活動協議会の事業でも各町会の町会だよりを受付で配って、興味があれば申し込んでもらえるよう地域活動協議会へ提案しているところ。 歳末夜警、餅つき、地藏盆やまちなか防災訓練のちらしに、町会加入の申込先のQRコードをつけて、カラー刷りで配れるだけ配った。 マンションにもイベントのポスターを貼ってほしいが、管理組合のOKがなかなかでないで、マンションの理事会に依頼をしてOKができれば、町会が取り組み安全・安心に関するポスターを貼らせていただいたりもしている。 町会だよりについて、防災は備蓄や訓練、レクリエーションはお祭り、地藏盆や懇親会、あとは安否確認のために町会名簿を作成していることや写真を載せた町会だよりを発行している。 （王委員） 戸建ではお願いにいけば町会に加入してくれるが、マンションの場合はワンルームは絶対入らない。ファミリータイプでも管理組合を通して交渉しようとしても交渉に応じないことがあり、各部屋に町会入会の案内ちらしをポスティングしている。 イベントには町会に加入していないマンションの子どもも来るが、イベントへの参加を断るわけにもいかないし、どんなふうに関係員を増やしていったらいいのかわかっている。 はんなん祭りでは町会加入の受付をしようと思っている。 （新藤委員） 小学校で行事をすると多くの方が来られるが、町会に入っていない人が多い。その方々に町会加入してもらうには、どんな取り組みが必要か知恵を絞る必要があると思う。 行事を実施すると、子供さんが学校からちらしをもって帰るので親子で参加はするが、単発の参加になる。それを継続していけるような形になればいいなと思う。 金塚地域の方は、常盤小学校、丸山小学校に通っている子どもが多く、他の小学校に通っている子どもの親御さんをどんなふうに取り込めばいいのかが地域でも課題だなと話している。 その取り組みをすることによって、町会の加入率をあげられたいと思う。 （上久保委員）	大阪市としても、本年3月に「大阪市町会加入促進戦略」を策定し、町会の加入促進の取り組みを進めていこうとしております。 阿倍野区としても「大阪市町会加入促進戦略」にもとづく阿倍野区のアクションプランを策定し、マンション世帯をはじめとした加入促進や各町会の取組みを支援できるよう取り組んでまいります。	①
13	R6.7	令和6年度第1回まちづくり部会	【町会加入のメリットについて】 町会には加入してが、メリットって何だろうって考えるとなかなか言語化できない。 閲覧板が回ってきて、情報をもらったりとか、防災のときには必ず顔を知ってるほうがいいだろうとか、そういう感覚はあるけど、それが大事だというのは、なかなか若い人に伝わらないだろうと思う。 情報を取るとしたら、デジタル（インターネット）ではあんまり出てこなかったもので掲示板とかで知ったり、隣の人や家の前の人に教えてもらったりして情報を知ることがあった。 町会に加入したら楽しいイベントがあるよとか、ボランティアについても、例えば単発で、土曜日に仕事で休みでテントを立てるだけのお手伝いしてもらったら嬉しいとか具体的に知りたいなと思う。 （松下委員） 地域の新聞を定期的に発行し、行事や地域の団体の紹介等を定期的に入れて配付している。 あとは、町会の方には何かあった場合に一人住まいの方は特に何かあった時に親族に連絡がつくよう名簿を作成している。 （新藤委員） 単発で楽しむだけの方を町会につなげていくことが難しい。役員をさせられるから、単発的にしか顔をださない人もいる。 防災訓練や公園の清掃などもあり、町会の行事にいろいろ参加し、経験していく中で、理解してもらえたらいいと思う。 マンションでも人と廊下で会えば挨拶くらいはしているし、長期計画にはなと思うが、町会加入もお願いしやすくなるかなと思う。 子どもさんがいる家庭は、地域活動協議会のいろんな事業に参加してくれているので、「連合町会や地域活動協議会がやっている事業です。」と伝えて、何度か行事に参加してもらえる状況になった時に改めて町会加入の話をして町会に加入される方もおられると思う。 町会のメリットという難しいが、もしもの時のために、町会に加入した方がいいのではないですか、という言い方をしている。 ただ、若い人は災害が起きても自力で対応できると考えているし、「え、町会？」という反応をする方もいる。 大災害が起こったときに助け合いましょう、それが町会の最大のメリットだと思う。 （上久保委員） メリットが何かということについて、つながりができるということであると、今日のお話を聞いていて思った。 地域のことをこんなに考えてくれる方と、まず出会って話す時点で、地域の役員の方を覚えるだろうし、加入のメリットよりも、まず人と出会って話せるとか、イベントを催してくれることで、そこに参加できる。参加したら、顔見知りとは違っていても、あの人の顔知ってるわ、とか、顔を知っているから挨拶しようとなるかも知れないし、第一歩なのかなと思う。対話するとか、会うということを作ってくれていることだと思う。 （松下委員）	町会加入のメリットを感じてもらうには、祭りなどの単発の楽しみにも参加していただきながら、防災、助け合いにより、命を守るといったところに訴えかけることも一つのヒントになると考えています。そうしたことも踏まえ「大阪市町会加入促進戦略」にもとづく阿倍野区のアクションプランの策定を進めてまいります。 また、SNSによる情報発信も進めてまいります。	①
14	R6.7	令和6年度第1回まちづくり部会	【地域活動の担い手について】 10地域（他の連合町会）では、どのように行事を計画・実行するのか感がある。 8月にははんなん祭りを予定しているなか、スタッフもたくさん必要で各町会で募集しているが、お盆前で参加して下さる方が少なく、1時間でもいいから来てほしいといってもなかなか来てもらえない、どんなふうになれば若い人が参加してもらえるか悩んでいる。 （新藤委員） 阪南小学校の児童も1,000人を超えており、その親御さんがどんどん地域に入ってくれたいのだが、青少年指導員も辞めると次の手がいない。 例えば町会で考えているのが、ボランティアクラブのようなものを作って、イベントの忙しい時に1時間でも、テントを立てるだけでも来てほしいと募集したら何人かは来てくれる。次はまた、餅つき大会あるので来れるようなら来てほしい、とかそんな形で行事を手伝っていただけたら、地域に何かと 溶け込んでくれるのかなという風に考えている。 （新藤委員）	スポット的にお手伝いができる仕組みがあれば、それに携わることで、興味がわくこともあると思います。区としては、これらの提案により支援し、活動していただく中で町会加入のメリットを感じていただけるよう進めます。	①
15	R6.7	令和6年度第1回まちづくり部会	【地域活動の担い手について（ボランティア体験）】 中学生や、小学生の総合の時間や社会の時間に、社会勉強として連合町会長さんと呼んで講演会をしてもらうのもいいと思う。 今すぐに、良さとか価値は伝わらないかもしれないが、町会に入ったらこんなことができるのか、という未来の町会のリーダーを育てる感じで職場体験のような形で町会体験、ボランティア活動をしてみたいのではないかと。 経験することで、必要性があるから続けていく価値があるということ、大人になる前の社会勉強の一つとして、夏休みにお祭りのお手伝いや町会の行事を体験するプログラムなどを作って取り組んでみたらどうかと思った。 授業を通じた体験をして、自分のところの町会にもってかえるという意味でも良いと思う。 他の町会でやっていて、自分たちもしたいよね、とか動機づけとして、町会っていいよね、と思わせることができたと思う。 実際のお手伝いとなると、小学生は難しくても中学生、高校生ぐらいになってくるとテント張りとかなら「手伝います！」ということもできると思うし、近所のおじいさん、おばあさんの安否確認に協力できたり、少し期間がかかるかもしれないが、廃れていく組織ではなく、育てる組織、募る組織として町会があればいいなと思った。 （甲斐委員）	大阪市で「町会ってなあに？」という漫画仕立ての冊子を作成しています。そちらを今年度から、区内の全小学校3年生の授業等において活用し、町会の活動を周知しています。 学校で町会についての情報を得た後に、ご意見をいただいた職業体験等の際に、町会体験などができれば、段階的な取り組みになると考えます。町会が、子どもたちを育み次世代へつなげる組織としての取り組みを進めていけるよう町会と連携して検討してまいります。	①
16	R6.7	令和6年度第1回まちづくり部会	【地域活動の担い手について（子どもたちの防災意識の向上と町会の役割について）】 小中学生が防災に取り組む姿勢をさらに前向きにするために、ぼうさい甲子園に参加するなど、結果を残していくようにすれば、その取り組みが引き継いでいける形ができるのではないかと。 中学校は職業体験、小学校ではまちなか探訪をしていたり、いろいろな体験には参加しているけど、町会のことや防災訓練で、一時避難所は町会ごとに分かれているとか、町会長さんがどんな活動をしているのかというのはわかっていないので、そういうことを学んでもらうというのは重要だと思う。 来年3月くらいに女性をターゲットにした新しい形の防災訓練をやってみたいと考えている。家庭の備蓄のことや避難所の女性の困りごとなどの視点を重視した訓練をする、子どもが主体となって親を呼べるような訓練をして、ぼうさい甲子園のようなコンクールに参加する、そして阿倍野区全体に取り組みを拡げていくというようなことを考えている。 （大島委員）	阪神淡路大震災の教訓を未来につないでいこうと兵庫県などが主催するコンクール「ぼうさい甲子園」に小中学生の防災取組をエントリーして継続的な取り組みに発展させていってはどうかというご提案と理解します。実際に市内の中学校が地域ぐるみで実施している「防災デー」が奨励賞を受賞するなどの実績もあります。取り組む中学生のモチベーション向上や、継承される取り組みとしていくための展開など、他の事例も研究しながら検討してまいります。 また、女性の視点を重視した避難所の取り組みは、3月の防災フェアでもテーマとしてきたところです。ぜひ地域の防災の会合や、まちなか訓練に取り入れていただきたいと考えます。	①
17	R6.7	令和6年度第1回まちづくり部会	【おさんぽmapについて】 4版目が置いている場所は、どこでお知らせしているのか。 「あべのつて」や「ままちっ」などの団体のSNS等で発信するなど協力したいと思った。 （大森委員）	区役所ホームページにおいて、「おさんぽmap」の配架場所等の情報を掲載しています。主な配架場所もホームページにて掲載させていただいております。 「おさんぽmap」の情報発信につきまして、ご協力いただきますようお願いいたします。	①
18	R6.7	令和6年度第1回まちづくり部会	【おさんぽmapについて】 お風呂屋さんは何の理由で入っているのか。 「災害とつながりのあるまちづくり」にという項目に関連して、遊びに来ている方や仕事の方が、いざ地震が起きた時に避難する場所がわかるような地図が載っていたら、このマップが遊んでいるときや会社や学校にあってもいいと思う。災害マップみたいなものも並行してあったら、小学校に配ってもいいんじゃないかと思う。 掲載店舗としては、商店会連盟と市で実施しているあきないグランプリの受賞店舗が掲載されているので、区商連への加入促進なども含め基準を守っていただけるとありがたい。 おさんぽmapを地図みたいに拡大版にして最初が後ろにつけておけば便利かと思う。 （甲斐委員）	銭湯につきましては掲載のご許可をいただいているのが2店舗というので掲載しております。大阪市と大阪府の公衆浴場、公衆浴場業生活衛生同業組合との連携協定を結んでおりまして、万博誘致の中でも外国の方が来日された際にも利用していただき、銭湯を第2版、第3版から掲載しております。 当区では防災マップを作成しております。「おさんぽmap」への掲載について、ご意見をいただきましたので、検討してまいります。	②
19	R6.7	令和6年度第1回まちづくり部会	【おさんぽmapについて】 おさんぽmapの評価について、本の配布数とか、スタンプラリーのプレゼントがどれくらい出たから結果がよかったとか、評価の基準があるのか。 他区でもこのようなマップをやっているのであれば、その周知方法を参考にされたりしているのか。 （松下委員）	「地域住民・企業等と協働することで、人が集い、賑わいが創出され、魅力あるまち」をめざし取り組みを進めています。おさんぽmapの評価基準は設けていませんが、スタンプラリーにゴールされた方へアンケートにご協力いただき、本取組みについてのご評価をいただいています。 より多くの方に阿倍野区を回遊していただけるよう、他区の取組みについても情報収集してまいります。	①

[分類]
①当年度において対応
②翌年度に対応予定

番号	年月	会議	意見内容（要約）	対応（回答）	分類
20	R6.7	令和6年度第1回まちづくり部会	【帰宅困難者対策について】 天王寺周辺は遠くから通勤している人も多く、地震で地下鉄が止まるなどの際の対策や計画はどうなっているのか。 阿倍野区は地下鉄駅が多数あり、地下鉄乗車中の被災に怖さを感じている。駅間でも停車して構内から地上に上がる対応だと聞いたことはあるが、区役所などはそういった避難訓練はしているか。 （甲斐委員）	帰宅困難者対策については、市内の6つのエリアを指定し、危機管理室が対策の取り組みを進めています。阿倍野区では、天王寺・阿倍野エリアということで、周辺のホテルや商業施設などが参画する協議会において一斉帰宅の抑制の観点からの対応を依頼しています。 区役所と大阪メトロが連携した訓練などは特段行っていませんが、大阪メトロによりますと、地震による安全対応として、P波感知による速やかな安全停車及び乗客の避難誘導など、適切かつ迅速な対応を行えるよう体制を整え訓練を実施しています。	①
21	R6.7	令和6年度第1回まちづくり部会	【成果目標の設定について】 成果目標は、絶対にこの程度の数値は要るだろうと思うのが目標値なので、去年50%だから今年60%ではなく、命に関わっているから必然的に70%が80%は必要だという感覚での目標がいるんじゃないかと個人的には思う。 （甲斐委員）	6年度までに60%を達成するという目標を掲げ、取組みを進めてきましたが、目標達成まではいたっておらず、今回の将来ビジョン策定にあたって60%に設定しましたが、ご意見を踏まえ目標値を検討してまいります。	①
22	R6.7	令和6年度第1回福祉・健康づくり部会	【地域福祉活動について】 地域福祉活動に参加したことがあるという方の割合が、20何%とあるが、自分が普段、地域福祉活動をしているという意識がなくてもやっているのではないかなと思う。 そういう視点で、地域全体を眺めていくということも大事なことで、地域の中で意識して見て、盛りあげていこうということかなと思う。アンケートだから数値になると思うが、ただ、それだけではない。いろいろな関わりで、いろいろな暮らしの中で、地域福祉活動をみなさまがやっているという目をまずは持つことかなと思う。 （今井委員） 一つの行動を区民の方が見て、自分としては当たり前のことをしていたんだけど、その行動を見た人からしたら地域福祉活動になっている、ということとはしばしばあると思う。そういう活動を見ていただくことも一つのPRになるかなと思う。 （波多野委員） 根本は教育だと思う。阿倍野区福祉教育プログラム集を教育現場に配布したら終わりということがほとんどだと思うが、その教材にどんなことが載っていて、どんな願いが込められているのかを共有し、どういうふうに活用されているのかを把握する必要があると思う。それをふまえて教員が自由に展開していくということだろうと思う。 実際に授業をしながら、この辺りがやっぱり弱いんと違うとか、あるいはここが優れてるよというようなことをやっていくと、行政と教育がうまくタイアップでき、福祉教育がより充実するように思う。 （白石委員） 地域福祉活動がどんな活動か理解していない人が多い。 ふれあい喫茶や食事サービスや子どもの見守りをしていることが、地域福祉活動に参加しているということに気がついていない人が多い。 活動している方は、地域福祉活動をしているという意識はないと思うので、地域福祉活動を知っているかとアンケートで聞かれたときに、地域福祉活動をしているにまはしないと思う。 （家永委員） 福祉に関心を持つように、活動を知っている方を増やすことで、こんなことをやっているのかとなり、地域福祉活動に参加しようかなという気持ちになると思う。 （波多野委員） 地域福祉活動を担う部会が、地域によっては違うので温度差があると思う。 男性の方もなかなか参加されない。男性の方は、極力地域福祉活動に関心を持っていただきたい。 やはり女性が多いので男性が入っていきにくいと思う。男性も活動に参加しているよとPRしていただきたい。 （波多野委員） 人数が少ないとか、広がらないとか、いろいろ出ているが、それでも一つの地域にとってみたら、やっぱり何十人かの人たちが動いている。それは本当に気持ちを持って、地域のみなさまの手助けにちよっとでもなるようなことをやろうという気持ちを持ってやる人がいることがとても大事なことで、どうやって広めていくかという目線で、やっていけばいいのではと思う。 町会の役員が少なく、成り手が無い。現役の人たちは、忙しいので、役員をやること自体が難しいが、そんな中でも、やっぱり1人、2人とやってくれる。そういう人たちをこつこつと広げていくというのが町会の今の役割であり、それと同じことで、本当にこつこつ、食事サービスやふれあい喫茶をやり続けることがとても大事ななことだと思う。 （今井委員）	福祉活動を行っている自覚のない方への自覚を促し、また現在地域福祉活動に関わっていない方の意識を高め行動につなげていくために、広報紙等での情報発信や、あべのカーニバルなどの多くの区民の方が参加する行事等で啓発に努めます。	①
23	R6.7	社・和健6年づくり第1回回福	【地域福祉活動について】 地域福祉活動に参加する人を増やしたいということで、参加していない人は、どんな活動をやっているかどれが地域福祉活動か知らない。紙で読んだところで、参加しようとは思えないかなと思うので、具体的に地域福祉活動を見るなり、お誘いがあって参加するなり、何かしないと参加者は増えないと思う。参加している人たちが参加しそうな人をお誘いして、見るだけでもいいから来てもらう形で地域福祉活動を見てもらい、一緒にやると参加が増えると思う。 （潮見委員）	地域福祉活動の例として、子どもの登下校の見守り、ふれあい喫茶、高齢者食事サービス、子育てサロン、こども食堂、いきいき百歳体操など取組みを掲げていますが、ボランティアなどに参加したことのある方の割合は、22.3%（令和5年度実績）で、地域福祉活動に関わる方は増えておらず、少しでも地域福祉活動にふれていただけるよう意識の啓発を続けてまいります。	①
24	R6.7	令和6年度第1回回福祉・	【地域福祉活動について】 「3-1のみんなで支えあう地域づくりと相談支援体制の充実」について、要援護者ほど自分はまだまだ大丈夫と思っていたり、複合的な課題を有する人こそ、自分は福祉の対象ではないと思いついていたりするように感じている。 自分は特殊詐欺には遭わないと思いついていたりするように感じている。身近な大切な人に教えてあげようというような間接的な呼びかけでニーズをあぶり出す必要があるように感じた。 フェーズフリー※の推進として、障がい特性や高齢者特性など、地域が抱える課題に合わせた形で、まちなか防災訓練を行う際に地域福祉の重要性をもう少しアピールしても良いのかなと思う。 ※フェーズフリーとは、平常時と災害時というフェーズ（段階や状況）の区分けをなくし、日常的に利用している商品やサービスを、そのまま災害時にも利用できるようにするという考え方です。 （金光委員）	広報を行う際に表現方法の参考にさせていただきます。 要援護者名簿は、平時の見守りに活用し、災害時には、安否確認などに活用されます。 また、名簿に登録されている方の中で、避難する際に介助が必要な方を対象に作成している個別避難計画について、発災直後の救助活動等に活用されます。 平時・災害時を通して、要援護者名簿や個別避難計画は、有効であると考えており、要援護者名簿へ登録していただけるよう防災訓練などで啓発してまいります。	①
25	R6.7	令和6年度第1回回福祉・	【地域福祉活動の情報発信について】 地域活動への参加について、「広報あべの」を見て、掲載されている行事に参加したいと思う方もいると思うが、まず地元地域で老人会の方が主催する、百歳体操等の行事を、実際に見学したり、チラシを見たりすることで、参加したいと思う方もあると考えるので、行事の案内を地域でどう発信したらいいかなと思う。 食事サービスに関しては、年に1回チラシを400枚作って配布するが、なかなか参加者が集まらない。 女性部長やボランティアも含めて登録者は45、6名になっているが、参加者は21名ぐらい。明日も食事サービスがあるが、参加者は14名に対しボランティアが21名で、ボランティアの方が人数が多い状況。参加者が少ない場合でも断れないので、食事サービスはにぎやかにやっている。地域の活動を一生懸命やっているが、なかなか参加者が少ない状況だ。 （稲森委員）	広報あべのでは毎月各地域の活動を紹介する記事を掲載しており、活動を紹介されているLINEやInstagramのQRコードを掲載し、各地域の方に見ていただけるよう啓発を行っています。 また、阿倍野区社会福祉協議会では各地域の集いの場マップを作成し、地域で開催されている百歳体操や高齢者食事サービス事業等の開催日をお知らせしています。 今後もより多くの区民の方に地域の活動を知っていただけるよう広報に努めます。	①
26	R6.7	令和6年度第1回回福祉・健	【地域福祉活動の情報発信について】 広報紙で、繰り返し同じことを周知するとか、お困りの方には具体的にわかりやすく呼びかけてあげないと、全然気がつかないことが多々あると思う。広報紙の紙面を増やすなり、いい活動を紹介するとやってみたいと思う方もいると思うので、広報が大事だと思う。 （井上委員） 広報紙には、高齢者月間だけではなく、毎回載せてもいいと思う。みなさまにお知らせしていくというのは大切だと思う。 知っている者は知っている、見ない者は分からない。見ないから、分からないから、知らないじゃなくて、深く知ってもらいたい。区政会議委員も情報を広めていく一つと考えてもらい、広く周知する方法を考えてほしい。 （波多野委員）	広報紙について、現在は全戸配付させていただいており、区内にお住まいの方に毎月ご自宅にお届けしているので効果は絶大だと考えます。 福祉の取組で9月の高齢者月間などであれば、広報紙の紙面スペースを大きく取って記事を載せることができますが、毎年同じ内容を繰り返し掲載するだけでなく、今年は地域の特徴的な取り組みについてクローズアップしてPRすることも検討します。 また、繰り返し広報を続けることは大事なことです。が、広報紙の紙面には限りがあり、恒常的に記事を掲載することは難しい状況なため、他の媒体を使って広報を行うことも検討します。	①
27	R6.7	令和6年度第1回回福祉・	【地域福祉活動の情報発信について】 防災訓練は、東南海地震が、非常に身近に感じることだと思うので、参加への興味は高いと思う。ふれあい喫茶や食事サービスは、地域の温度差があると思うが、全く顔を見ない方とお会いできて、参加してみると楽しいこともあるので、参加するにはどのようにすればよいか、いつ開催するのかなどを広報したら、行きやすいと思う。広報紙は紙面が限られているが、具体的に広報すれば地域の方が行きやすいと思う。 （波多野委員） 広報紙の紙面に制約があるならば、私自身が発信していくべきと思う。私が百歳体操に参加して、そこで感じたことなどを発信していけたらと思っている。 （井上委員）	地域福祉活動の参加者を増やすには地域での呼びかけが重要です。 福祉的な取組としては、障がい者施設の方の会議で、自分が働く地域の防災訓練などに参加して、問題点等を検討して有事に活かすために参加したいと表明されています。 地域の方と、団体や事業所の方をつないでいくのは区役所の役割だと考えています。	①
28	R6.7	令和6年度第1回回福祉・健	【高齢者食事サービス等への参加について】 高齢者の方が、食事サービスに月1回会館へ来て参加しているが、デイサービス等にいっている方などは、食事サービスに参加するために遠くに住んでいるお子さんが休んで付き添うよりも、週に何回か行っているデイサービスに行くほうが安心だという声を、ケアマネージャーに言われたことがあり、高齢者に会館まで来てもらうことは無理かなと思っている。 食事サービスに関しても、地域活動協議会の補助金の対象となり、このまま続けていっていいものか、私たちもどうしていくか考えているところである。 食事サービスに限らず、防災訓練など、どうしてもみなさまが参加ができるような魅力的なお声かけができるのかなと考えている。 （稲森委員）	現在、高齢者食事サービス事業については、高齢者の方を対象としています。が、地域によっては高齢者に限らず親子連れなど、いろいろな世代の方が参加できる、集える場として食事サービスを開催されている地域もあります。 参加者が減少傾向にある地域もあるとお聞きすることありますが、区からの補助金について来年度から事業の対象者を高齢者はもちろん、より多くの方を対象に事業が展開できるよう改めることとなりました。	①

[分類]
①当年度において対応
②翌年度に対応予定

番号	年月	会議	意見内容（要約）	対応（回答）	分類
29	R6.7	令和6年度第1回福祉・健康づくり部会	【要援護者名簿について】 災害時等における要援護者への支援について、名簿作成の際にプライバシーの問題をどういうふうに押さえているのか教えてほしい。 しっかりと支援しなければいけない人を前もってマークしておくことは、すごく大事なことが、個人の様々な情報に関しては十分な配慮が必要だと思う。 （白石委員） 要援護者名簿について、自分が望むならば、社会福祉協議会で申請書を提出していただけたら、要援護者名簿に登録される仕組みとなっている。 内容については守秘義務が守られる。近隣で要援護者名簿に登録したい方がおられたら、民生委員や社会福祉協議会の見守り相談室に申し出れば、要援護者として登録することができる。 ただ、要援護者名簿を知らない方がいるということは、要援護者名簿の取り組みが大事なことであるということをもう一度、広く発信する必要があるかと思う。 （波多野委員） 組織では、皆が共有しなければいけない情報があり、それは絶対に漏らしてはいけないものであり、どんな組織でも同じだと思う。 名簿についても、本人の意思を確認したうえで、記載した情報を受け止める。意思を表明できない方の対応はどうするのか。 （白石委員）	要援護者名簿の対象者については、大阪市内で障がい者や要介護度の高い高齢者がピックアップされ、社会福祉協議会の見守り相談室から名簿への登録にかかる案内文書をご本人に送付しています。 案内文書で見守り活動を担う方及び地域役員への本人情報の提供について、同意された方のみ要援護者名簿に登録されています。 対象者自身が申込書に記入できない場合や意思表示が困難な場合は、各地域の民生委員や地域福祉コーディネーターが親族やケアマネージャー等の協力を得ながら申請しています。また、名簿管理者には個人情報が増えることがないように、取り扱いを徹底するようお願いしています。 要援護者名簿の取り組みについては、これまで地域の会議などで情報発信しておりますが、今後もより多くの方に取組みを知っていただけるよう繰り返し情報発信を続けてまいります。	①
30	R6.7	令和6年度第1回福祉・健康づくり部会	【つながりづくりについて】 「支援を必要としている人に支援が届く社会をめざす」ということであるが、支援が必要になる前に地域でつながっていないと難しいのではないかと考えている。 支援が必要な人というのは、人との付き合いが下手な人が多いので、仕事をリタイアした時点ぐらいで何かに参加ができて、つながっていけばいいのかなと思うが、特に男性の場合、仕事をリタイアして、そのまま家で閉じ籠もっているというのが多いかなと思う。 家から出して、集まれば、支援を必要な人を把握しやすくなると思う。会社を辞めた後、何もしないという人に対して手を差し伸べるというか、その辺が足りないように思う。 （潮見委員）	清明ヶ丘地域などでは、「男のつどい」として、仕事をリタイアされた男性が月に何回か集まって、地域の祭りに自分たちで出店することを検討したり、みんなでご飯を作って食べようといった取組みなどをされています。こうした地域の取り組みについて、区役所でも情報発信などこれからもお手伝いしていきたいと考えています。	①
31	R6.7	令和6年度第1回福祉・健康づくり部会	【地域コミュニティづくりについて】 つえをついた高齢者や手押し車を使って通行している人をよく見る。最近、外国人が近所のマンションに結構固まって住んでいて、一つの社会ができています。 習慣の違いがあり、新しい環境ができてきているが、実際にコミュニティをどうするのか、言葉も通じないし、高齢でなかなか動きが取れないので、地震が来たら右往左往するしかないのかなと思う。 いろんな機関の人たちとつながって、困った時に相談ができる体制を地域の中で作っていく必要があると思う。 支援が必要な人たちがたくさん増えて、その一方で、働いている人は忙しくて昼間はいない状態で、なかなか複雑な問題がいろいろ出てきて、相談できる体制を1歩2歩でも前に進められたらいいと思う。 （今井委員）	外国籍の方や高齢者など、現在阿倍野区に住んでおられる方同士のつながりが希薄だということをどうしていくかという、大きな課題だと認識します。こうした課題をどうしていけばいいか、福祉・健康づくり部会だけでは答えは出ないかもしれませんが、引き続き、検討していかなければいけないと考えます。	①
32	R6.7	令和6年度第1回福祉・健康づくり部会	【健康づくりイベントの周知について】 「3-2の地域ぐるみで誰もが元気に暮らせる健康づくり」について、広報紙では、毎月、食育につながる「あべのカフェ」のコーナーや、「今月は〇〇月間です」という案内があるが、「今月は階段使用を推奨する月間です」というような健康に関するコーナーもつくってみたいらどうかと思う。 （金光委員）	紙面の問題もありますが、健康づくりの推進に向けて広報を行う際の参考にさせていただきます。	①
33	R6.7	令和6年度第1回福祉・健康づくり部会	【健康づくりイベントの周知について】 健康寿命の延伸につながるよう、作業療法士や薬剤師さんにもご協力いただいて、通勤や通学時間を利用したプチ健康づくりイベントの案内を区広報紙で紹介することも、イベントの担い手の意識向上と区民の健康意識アップの両方に効果があるように思う。 （金光委員）	健康づくりのイベントの案内については、広報紙だけではなくホームページやSNS等でも案内しておりますが、今後イベントを広報する際の参考にさせていただきます。	①
34	R6.7	令和6年度第1回福祉・健康づくり部会	【事業のターゲットについて】 私は大阪府の食育にも関わっており、食育を展開する行事にも関わってきた。また、公衆衛生学を専門としているが、その中で「個人」と「集団」というものの考え方を分けてやっていくというものがある。区政会議に参加してみて、区政会議福祉・健康づくり部会というのは、集団で捉える場合もあるだろうし、個々で捉える場合もあるため、その両方を合わせていくと、うまくいくのではないかなと思っている。 （白石委員）	食育事業につきましては、子どもの保護者向けの事業をメインで行っておりますが、男性の料理教室も行っております。出てこられる方は年配の方が多いと聞いておりますが、みなさまで料理をして、すごく人気があると聞いております。そういった趣味と実益を兼ねた活動をも少し広げていけたらと考えます。 集団と個という話がありましたが、健康づくりについては、基本的には個々の健康づくりというのがベースとしてある中で、あべのウォークやいきいき百歳体操といったイベントを、みなさまが集まり集団で行うことによって、健康づくりの相乗効果を生み出しております。	①
35	R6.7	令和6年度第1回福祉・健康づくり部会	【不登校の対応について】 学校になじめないなどの悩みを抱えた子どもの居場所として、今はまだ木曜日だけのびあ・ほーむを月曜日にも拡大していただけたらと思います。びあ・ほーむが難しい場合には、クールダウンできるスペースの利用だけでも検討をお願いしたい。家にも学校にも帰れず、人気のない学校周辺をうろついて、非行や犯罪に巻き込まれたりする子どもを未然に防ぐためにも、早急なご検討をお願いしたい。 （金光委員）	不登校の居場所「びあ・ほーむa(エー)」につきましては、同じ悩みを抱える子どもたちが集まることによって、一定の効果を発揮すると考えております。また、木曜日に開設していることを周知していることや、スタッフの体制の問題等もありますので、月曜日に拡大することは難しいと考えております。なお、クールダウンするための個別相談はいつでも可能ですので、お気軽にお問い合わせください。	①
36	R6.7	令和6年度第1回福祉・健康づくり部会	【地域活動について】 広報紙でも、町会に入りましょうという記事があり、みなさんに町会に入ってほしいと思っている。地域活動協議会の活動は、町会に入っていないくても、みんなが参加でき、敬老の日などは記念品がもらえるんだと思っている方もおられるようで、町会加入の声かけがすごく難しいなというところはある。 （稲森委員） 町会に加入していないと情報が入らないことが結構あると思う。 （波多野委員） 文の里地域は、地活協も地域振興会も最初からずっと一つでやっている。 文の里は地域内に、幼稚園二つ、高校二つ。ただし、義務教育の小学校と中学校がないので、PTA活動や、学校を借りることができないため、お互いが助け合って、何かあったら幼稚園を借りる、高校を借りるということで、お互い助け合っている。ただ、若手のボランティアがいなくて、地域活動をしている方の息子さんと娘さんが担っているのが現状である。 （家永委員） 地域活動協議会ができるということになったときに、連合町会は徐々になくなって、地域活動協議会に一本化になるのかなというように話を聞いていたので、今やってくることにしても、地域活動協議会の防災・防犯であるとか食事サービスもやっていて、今日はどっちの活動に参加しているのかわからなくなるようなことがある。 （稲森委員）	大阪市として、本年3月に「大阪市町会加入促進戦略」を策定し、阿倍野区としましてもアクションプランを策定し、町会の加入促進の取り組みを進めています。 町会は住民にとって身近な存在で、特に防災時には、日頃から顔の見える関係ができていれば、それが住民同士で命を守るというところで有効になってくると思います。そういったところも訴えて、町会の加入促進に取り組んでまいります。	①
37	R6.7	令和6年度第1回福祉・健康づくり部会	【将来ビジョンについて】 防災は具体的な取組みなので分かりやすいが、福祉活動については、イメージが湧いてこない。 「3-1 みんなで支えあう地域づくりと相談支援体制の充実」の「今後の施策展開の方向性」とこの「成果目標」との関係で、施策を推進するために成果目標「支援を必要としている人に支援が届く社会をめざす」がどう関連するのか。全体のイメージが湧いてこないで、具体的に地域が何をしてくか、どうしたらいいのかと思っている。 （今井委員）	今後の施策展開の方向性には、多くの方々が、地域福祉活動に関わることや適切な支援につなげる取組を行うことなどの課題解決の方向性を掲載しており、その課題解決に向けた進捗度合を成果目標によりチェックしています。 具体的には、日ごろから地域の方が取り組んでいる地域福祉活動として、子どもの登下校の見守り、ふれあい喫茶、高齢者食事サービス、子育てサロン、こども食堂、いきいき百歳体操など取組みを掲げていますが、ボランティアなどに参加したことのある方の割合は、22.3%(令和5年度実績)で、地域福祉活動に関わる方は増えておらず、今後の施策展開の方向性に沿って取組みを進めてまいります。	①